

「知事と若者の地域創生ミーティング in 最上町」

若者8名が意見交換

11月8日、おらだずの宿りんどう内にあるフランス料理店トトマビを会場に、「知事と若者の地域創生ミーティング in 最上町」が開催されました。この事業は、県と町との共催により実施され、明日の地域創生を考えることを目的としています。今回は、町内の10代から40代までの若者8名が参加し、吉村知事や高橋町長にコメントをいただきながら意見交換を行ないました。この特集では、各参加者の意見をお伝えします。



松田 清也 さん
飲食店（月橋）

フードロスを減らしたい！

日本の野菜市場では常に規格が重要視され、最上町に限らず規格から外れた野菜が溢れている。自分のレストランだけでも、今シーズントンの規格外アスパラガスを消費した。こうした余刺野菜を、地産地消できなくみがかできたらいかなど考えている。規格外であっても味は同等。見た目が悪いだけで市場価値がなくなり破棄されるのはもったいない。料理修行のため滞在していたフランスの市場（マルシェ）では、野菜の個包装は無く、量り売りの形態が主流で、消費者がニーズに合ったものを選べるシステムになっている。私がレストランを営む意義は、フードロスの解消でもある。私のレストランだけの取組みでは限界があるので、日本人の根本的な消費行動の変革が求められると思うし、そのためにできることを考えたい。



張 申豪 さん
地域おこし協力隊（向町）

地方の魅力を伝えたい！

私は地域おこし協力隊として国際交流に携わっている。山形県には台湾からの直行便が運航されているが、旅行ルートとしては山形県から他県に抜けることが多い。その時に泊でも長く山形県に滞在してもらえよう山形県をPRしたい。特に台湾の人たちに對して、最上エリアの魅力をもっとプロモーションしたい。最上町・最上エリアには、他の観光地にはない地域資源が十分ある。今後はそれらをアピールしつつ、最上エリアを台湾とのつながりをもっと増やしていきたいし、それに携わりたい。



桂木 千秋 さん
農業（向町）

農業を盛り上げたい！

今の私の頭の中は農業のこといっぱい。最上町の地域産業である農業が、もっと盛り上がったらしいのではないかと考えている。最近少しづつではあるが、私の身の周りでは農業に興味を持つ人が増えている。そういった人たちがもっと最上町で増えたいなと思います、山形県内の女性農業者ネットワークに参加し、昨年からマルシェ等で自ら育てた野菜を販売している。訪れる人に対して、女性でも農業を楽しんでいる姿をアピールしたり、SNSを活用して実際の農作業の様子などを発信したりして、農業のイメージをいい方向に変えたい。自分が積極的に関わりたい。自分も積極的に外にアピールすること、結果的に農業に取り組む仲間が増えたらいいと思っている。



高橋 理央 さん
高校生（赤倉）

町民のみなさんに恩返しを！

私が目標にしていることは、「最上町を盛り上げ、町の活性化に貢献したい」と、「最上町に恩返しをする」と。この目標を達成するため、地域密着型のラジオ番組を作ること考えた。そこで結成されたのが、今私が代表を務めている「幸高ラジオ制作委員会」で、現役最上校生とOB・OGの8名で活動している。「幸高」は、高齢者を幸せにできるような番組を作るという思いと、メンバーに高校生がいることに由来している。私は今まで最上町の人にたくさんものを貰ってきたので、この幸高ラジオを通して、最上町の皆さんを楽しませることで恩返ししていきたい。

みんなが超スマート社会に適応できるように！

日本全体が超スマート社会に向かう中、最上町でも身の回りの様々なものがデジタル化されている。こういった流れに取り残されないよう、みんながサービスを受けられるようになってほしい。また、最上町がどういう方向に向かっているのかを理解し、自分たちには何ができるのかを考えて意見を共有できればと思う。それぞれが活躍できる場は、周りの意見共有の中できつと見つけるはず。みんなが役割を感じること、若者離れがなくなればいいと思う。



浅井 泰之 さん
介護職（細の原）

子どもたちや高齢者のサポートを！

障がいや生きづらさを抱えている子供たちが多くいる中、「自分たちが大人がしてやれることは何か」を考えたことがきっかけで始めた。子供たちの居場所づくり。子供たちが元気にしている姿を見ると、やりがいを感じる。また、交通が不便になりつつあり、高齢者にもサポートが必要と考えていて、安否確認なども兼ねた移動販売などを検討している。将来的に、子供たちがそういった事業に関わることで、高齢者とコミュニケーションが取れるようになれば、お互いにとって良いだろうし、そんな社会になればいいなと思っています。



小林 智輝 さん
農業（本城）

旅館は町のPRにはベストツール！

人口減少に歯止めがかからない現状ではあるが、私は他地域から最上町に多くの方が移り住んでくれば良いと思う。私は旅館業を営んでいるが、旅館は町の魅力を外にPRするにはベストツールだと感じている。温泉はもちろんだが、四季折々の食も十分に楽しむことができるし、ちょっとした観光案内もできる。いかに他県や海外を含む他の地域から、人を呼び込むことができるかを常に考えている。来てもらったお客さんにこの最上町が住みやすい、住んだら楽しいと思ってもらいたい。さらに最近では、外国人の雇用を積極的に受け入れていて、その方が少しでも興味を持って移住してくれたり嬉しい。雪が多くて大変なこともあるが、逆に雪を利用して楽しめるような生活ができるようになればいいなと考えている。



柴田 薫 さん
旅館業（赤倉）

子ども達が夢を見つけられるような町に！

私が思い描くまちは、子供たちが遊びを通して好きになれること、夢中になれることを見つけて、目標を持って何事にもチャレンジできる精神をもった子供が育つような町。大人、子供に関わらず、自分のやりたいことや面白いことに取組めるような楽しい場所を、いろいろな人と協力し合って作ってあげたいと思う。5月に最上スケートボード協会を設立し活動を行なっていて、10月には旧東法田小学校で約200人が集まるイベントを開催できた。このような遊び場のエリアが増えることで人が集まり、町内の飲食店や旅館等に賑わいが生まれれば、町全体の活性化につながると思うので、引き続き活動に取り組みしていきたい。



菅嶋 隆也 さん
畜産業（若宮）

参加された皆様、貴重なご意見ありがとうございました！